

一 評論 (配点35)

問一 記述問題Ⅰ 「配点8」 出題文6行目に「だが本当にそうなのだろうか。」という問題提起があり、それ以降は「他者は必ずしも『障害』とは言えないという筆者の主張が展開されている。従って、6行目以前の情報から理由に相当する箇所を拾い上げればよいが、3行目以降は「実例」部分であることから、1〜2行目がその対象となる。ただし、「利害・価値観・意向の不一致」のみでは「自由の障害」の説明にはならないことに注意が必要である。解答例は『利害・価値観・意向の不一致は、個人の自由を制限するネガティブな要因となるから。』(39字)

問二

- (1) 解答番号1 正答⑥ 「配点3」 正しい表記は「必要」。従って(c) 「必需」と(b) 「概要」の組合せが正解。
- (2) 解答番号2 正答② 「配点3」 正しい表記は「独身」。従って(a) 「独善」と(c) 「化身」の組合せが正解。
- (3) 解答番号3 正答⑤ 「配点3」 正しい表記は「妥協」。従って(c) 「妥当」と(a) 「協定」の組合せが正解。
- (4) 解答番号4 正答① 「配点3」 正しい表記は「譲歩」。従って(a) 「謙讓」と(b) 「歩調」の組合せが正解。
- (5) 解答番号5 正答③ 「配点3」 正しい表記は「我慢」。従って(b) 「我流」と(a) 「高慢」の組合せが正解。

問三 記述問題Ⅱ 「配点8」 「そこ」の指示内容は「他者と共にいる場面」、「最初」という語句は、ここでは「一番始め」という意味ではなく、「原初的」に近い。解答例は『人間にとって他者の存在は「前提」であり、自由の感覚は他者との関わりの中で自ずから生まれてくるものである、ということ。』(58字)

問四 解答番号6 正答④ 「配点4」 人間関係の前提条件であった他者の存在から生まれたものはその前提が崩れない限り消滅はしないだろうというのが傍線部の趣旨。

二 随想 (配点 35)

問一 記述問題Ⅲ 「配点7」説明に必要な要素は「文脈」と「単語の比喩性」。文脈的には直前の一文しか使用できる要素はない。傍線部内で最も説明が必要な「掛け算」という単語は明らかに「足し算」と対比して使用されている。解答例は『経験をそのまま使うような単純な足し算ではなく、経験を変化させたり別角度から活用することができる処理能力が身についてくる、ということ。』(66字)

問二 解答番号7 正答①「配点4」「要注意」の対象は「若い人に教えること」ではなく、「教えない方がいいとは分かっているもついでにやってしまう」こと。①以外はすべて「要注意」の対象が出題文の趣旨とはずれている。

問三

(1) 解答番号8 正答④「配点3」「お節介」は「不必要に人の世話をすること」「干渉」や「介入」に近い。⑤は「お節介」の原因または結果の一樣相に過ぎない。

(2) 解答番号9 正答②「配点3」「日に進み月に歩む」と訓読し、「絶え間なく進歩する」の意。

(3) 解答番号10 正答③「配点3」「修羅場」は「激しい戦いの場」の意。比喩的に「最も厳しい場面や状況」を指す。

問四 解答番号11 正答③「配点4」「そう」の指示内容は、「頼まれもしないのに若い人に嫌われながら」具体的な仕事のやり方について説明する「こと」。「そんなことをするより」「心の問題」という構造である。

問五 解答番号12 正答⑤「配点4」「それ」の指示内容は、「たとえ心の問題であつても」出しゃばってアドバイスすること。内容の如何に関わらず、聞かれもしないことを口に出すようなことを戒めている。

問六 記述問題Ⅳ 「配点7」「それ」の指示内容は「本当に必要なものだけを残す」こと。「若い頃は食欲に『足し』、40代はその積み上げを『掛け』るが、60代は『引く』ことが真の蓄積につながる」という逆説的な論理。人徳や度量の大きさなどは、その引き算の結果初めて得られるものであると筆者は考えている。解答例は『60代は必要なものだけを残す引き算が大切であり、その結果として人徳や度量の大きさという結晶が得られるのである、ということ。』(60字)

△出題文出典▽太田和彦『60歳からの引き算』(70歳、これからは湯豆腐)〈亜紀書房〉所収)

三 語句・文法 (配点30)

問一

- (1) 解答番号 13 正答④ 「配点3」 「お株を奪う」は「他人の本領・得意とすることを別の人物がやっつてのける」こと。
(2) 解答番号 14 正答① 「配点3」 ここでの油は果実や種子の油のこと。絞るには搾め木しきと呼ばれる道具を使用するが、「油を絞る」とは、まさにその道具で責め立てられるほどだという意味。
(3) 解答番号 15 正答⑤ 「配点3」 「寝ているかどうかを確かめる」のが原義。確かめる対象が「機嫌」や「出方」、さらには「調子」や「意欲」にまで広がった

問二

- (1) 解答番号 16 正答① 「配点3」 同意の言い回しに「馬耳東風」「馬の耳に風」「牛に経文きょうもん」などがある。
(2) 解答番号 17 正答② 「配点3」 「先憂後樂」は「先に憂え後に樂しむ」と訓読する。「転ばぬ先の杖つえ」に同じ。
(3) 解答番号 18 正答③ 「配点3」 「一笑に付す」は「全く問題にしない」「ばかにして取り上げない」の意。

問三

- (1) 解答番号 19 正答⑤ 「配点3」 「百鬼夜行」は「多くの悪者が我が物顔にふるまう」様子。秩序が崩壊しているさま。
(2) 解答番号 20 正答④ 「配点3」 「権謀術数」は「さまざまな計略をはりめぐらす」こと。「謀」は勿論「権」「術」「数」すべてに「はかる」の意味がある。
(3) 解答番号 21 正答③ 「配点3」 「誇大妄想」は「物事を大げさに想像してそれを事実と思いこむ」状態を言う。
(4) 解答番号 22 正答② 「配点3」 「疑心暗鬼」は「心に疑いを持つとどんなことも怪しく思われる」こと。

〈記述問題採点基準〉

一 評論

問一 記述問題Ⅰ〔配点8〕

- (1) 障害の実質部分である「利害・価値観・意向の不一致」が指摘できていて【最大部分点④】
- (2) その障害の実質部分が個人にとってどういう意味を持つのかに触れえて【最大部分点④】

問三 記述問題Ⅱ〔配点8〕

- (1) 自由の感覚を「どこ」で身につけたかが正しく説明できていて【最大部分点⑤】
- (2) 「最初の」という語句の文脈上の意味が適切に説明されていて【最大部分点③】

二 随想

問一 記述問題Ⅲ〔配点7〕

- (1) 傍線部内のキーワードである「掛け算」を「足し算」と対比させながら説明することができていて【最大部分点④】
- (2) 「掛け算」という語句の、この文脈における比喻性を適切に解体することができていて【最大部分点③】

問六 記述問題Ⅳ〔配点7〕

- (1) 「それ」の指示内容が正しく捉えられていて【最大部分点③】
- (2) 「真の蓄積」の文脈上の意味が正しく説明されていて【最大部分点④】